

令和6年度 町政執行方針概要



町長 横山 茂

3月6日に開会された第1回定例会で、横山町長が令和6年度の執行方針について述べました。今回の広報では、その主要な部分を掲載いたします。全文をご覧になりたい方は、役場総務財政課までお問い合わせください。

私は、昨年4月の任期満了に伴う町長選挙におきまして、町民の皆様の温かいご支援により2期目の町政運営を担わせていただくこととなりました。

私の1期目は、世界を震撼したコロナウイルスとの対峙の中で、町民皆様の「生命と健康」及び「暮らし」を守ることを最優先にしなからまちづくりに取り組み、この4年間に対する町民皆様の評価を謙虚に受け止めるとともに、寄せられた期待に改めて責任の重さを肝に銘じ、私の基本理念でありませ、子供たちに帰ってきてもらえる「夢と希望と誇りの持てるまちづくり」の実現に向け、「笑顔があふれる小さな町の大きな挑戦」をスローガンに、「オールぬまたで

輝かそう！ぬまたの未来！」を合言葉として、第6次総合計画に掲げる基本構想の一層の推進のため、決意を新たにしたいところであります。

本年、沼田町は明治27年に「沼田喜三郎翁」が18戸の開拓者を率いて開拓の鋤を下されてから130年を迎える記念すべき節目の年であります。町民皆様とともに祝い申し上げます。これまで築かれた礎のもと100年後を見据えたまちづくりに、しっかりと足元を見つめ、着実かつ大胆に挑戦するべく全力を傾注してまいりますので、引き続き、宜しくお願い申し上げます。

健康づくりの推進

第2次沼田町健康増進計画に基づき、町民一人ひとりが健康的な生活習慣を身につけ、主体的な健康づくりに取組むとともに、自らの健康寿命の延伸を目指していくよう心身の健康維持増進を促進するため、生活習慣病予防及び重症化予防の徹底が図られるよう、

モービルMRIによる脳の健診など各種健診や带状疱疹予防接種等各種費用助成を継続して実施し、町民一人ひとりが主人公の健康づくりと健康寿命の延伸に向けた受診勧奨に努めてまいります。

○高齢者福祉・介護の充実

本年度は、第9期介護保険事業計画のスタートの年であり、要介護認定者及び介護保険サービスの状況等の計画に基づき、今後3年間の介護保険料を定めることとなり、今期の介護保険料基準額につきましては、前期と同額とするこ

ととして提案いたしております。保険料を据え置くことができたのは、本町の高齢者の方々が健康維持に心掛け、介護予防に関心を持って各種事業に積極的に参加していただいていることも大きな要因であると考えており、第9期の計画期間も引き続き「高齢者元気100倍！教室」などの事業を継続しながら、近年増加傾向にある「認知症」に関する事業を重点施策として展開することといたしております。

高齢者の皆様が持つ様々な技術や経験、知識などを最大限に活かして地域の活性化に貢献いただける「活躍の場」の充実に向け、社会福祉協議会と連携し取り組んでまいります。

○子育て支援の充実

令和7年度を始期とする「第3期子ども・子育て支援事業計画」の策定に要する所要額の予算計上と、地域子育て支援センター運営事業などの子育て支援事業や、母子ともに健康で健やかな成長発達を支援する「妊婦一般健診」や「母乳外来等利用」「乳幼児健康診査の拡充」などに加え、新たに「産後産後安心事業」として、産後1年以内の母子に対し、心身のケアや育児のサポートをすることにより、安心して子育てができる環境整備と、引き続きICTを活用した相談支援体制を確保してまいります。沼田認定こども園につきましては、子育て環境充実のための一翼を担っていただいておりますが、保育士の数は基準を満たしてはいるものの、特別に配慮を要する園

児が多数いることから、園児に寄り添いきめ細やかな保育体制を維持するため、補充する保育士人件費2名分を補助することとし所要額を予算計上いたしております。

○農業の振興

水稻を中心とした営農体制の安定維持には、畑作や高収益作物も

含めた複合経営や低コスト化及び作業の効率化などの推進が必要であることから、これまでの事業に加え、スマート農業機械の協業取り組みを新たに助成対象とするとともに、令和6年度からスマートフォンと直接通信が可能な衛星利用サービス（スターリンク）が開始されることから、携帯電話不感地域での活用検証に加え、繁忙期である春作業の負担軽減及び経費削減を目指す、水稻の「初冬直播き栽培」の実証に取り組んでまいります。

また、中山間地域等直接支払制度において令和7年度からの次期対策より畑地を対象として取り組みため、測量調査に要する所要額を予算計上いたしております。

○有害鳥獣対策の推進

有害鳥獣対策につきましては、有害鳥獣駆除員の積極的な活動と猟友会や地域農業者など関係各位のご協力により、鹿及びアライグマの駆除を行うことで、農業被害の減少に大きく貢献いただいております。

引き続き、有害鳥獣対策委員会を主体としながら農業者と猟友会、有害鳥獣駆除員が相互に連携を図りながら農業被害の減少に努め、近年多発しているクマ出没情報に対しても防災無線・町ホームページなどによる情報周知と箱罠の設置などの捕獲活動を継続するとともに、有害鳥獣問題に関心を持つ北海道内の大学生サークルと連携した実地研修を実施し、農業被害の実情と駆除の重要性への理解を深めて頂き、関係人口の創出拡大に努めてまいります。

令和6年度 町政執行方針概要

○商工業の振興

店舗の新築や空き店舗等を活用した、新たな起業や商業活動、商品開発及び事業の継承・継続を推進する「事業継続・魅力向上めまた活性化支援事業」や、町内に所在する商工業の振興発展及び商店街の活性化を図る「沼田町商工業活性化チャレンジ支援事業」等を継続することにより、町内商工業者の安定かつ持続的経営発展を支援しつつ、地域経済の活性化に向けた取り組みを商工会と連携し展開してまいります。

○企業誘致の推進

従来の「足で稼ぐ」企業誘致のほか、オンラインを活用した企業誘致も並行して取り組むことで、地方進出を考えている企業ニーズをあらゆる手段を用いて把握するとともに、オンライン相談会やまちの見学ツアーを実施し、本町の企業立地優遇策や自然災害の少ない地域性などと地域資源や交通アクセスなど、本町の魅力や有意性を全面にアピールしながら、積極的かつきめ細やかな企業誘致活動を展開してまいります。

○観光の振興

本町の一大イベントである「夜高あんどん祭り」については、より多くの方々に楽しんでいただくとともに、沼田町の更なるPRを図るため、YouTubeでのライブ配信を継続してまいります。

また、中心市街地のにぎわいの創出と、交流人口の拡大を目指す事業として、各種団体と連携した「にぎわい活性化イベント」を開催し、町内外からの誘客や、昨

年、連携協定を締結した男子バレーボールチーム「北海道イエロースターズ」のホームゲーム会場にて、雪中米や特産品販売などを含めた観光PRを行うなど、連携効果による地域経済の活性化を図ってまいります。

○そらち自然学校

昨年オープンした「そらち自然学校」は、「NPO法人そらち自然学校」に運営を委託し、本町の自然の恵みを活かしながら「長靴レンジャー」や「森のようちえん」等の五感にはたらきかけ体験する各種アクティビティの実施や馬・羊による森のフィールド整備等を行ってまいりました。

自然学校に隣接する「ほたる館」や「化石体験館」の有機的な連携をより一層はかり、誘客の加速とリピーターづくりを図るため、「幌新地区魅力創造マイスター」の協力を得ながら、自然豊かで魅力あるエリアとして磨き上げるとともに一体的な情報発信により、関係人口の創出拡大に努めてまいります。

○沼田町駅未来協議会

沼田町駅未来協議会は、石狩沼田駅を核とした事業展開による誘客の促進、更には中長期的な将来を見据えた鉄道遺産の活用など、今後のまちづくりの在り方について検討する新たな組織であることから、協議会の活動や実施する事業のサポートを行うとともに、JR廃線後における駅前周辺の活性化と魅力あるまちづくりの実現を目指し取り組んでまいります。

○沼田町特産品開発 (クラフトビール)

「産業の創出」と、「人を呼び込む」稼ぐ特産品として期待するクラフトビールにつきましては、産業づくり支援員が主となって試作を重ね、各種イベントでの販売とともに、昨年11月には「恵比島駅」や「真布駅」等の町内各駅舎の写真をラベルにした「留萌本線メモリアルセット」を新たな「ふるさと納税の返礼品」として提供するなど、町内の酒販売店等とも協力しながら、商品開発と販売に取り組んで

まいりました。

これまでの取り組みを踏まえ、公設民営による醸造所の建設に向けた設計調査業務に着手しており、この設計調査を基としたクラフトビール醸造所の整備に要する所要額の予算計上と過疎地域持続的発展市町村計画の変更について提出いたしております。

○地域公共交通

JR留萌本線廃線後の代替交通につきましては、沿線自治体、JR北海道、空知中央バス等で組織する「JR留萌本線沿線自治体北空知実務者会議」にて検討・協議を継続しており、町民の足をしっかりと守り利便性を維持できるよう関係機関と連携しながら協議等を進めるとともに、国・道にも責任をもつて対応いただくよう引き続き強く要望してまいります。

○防災対策

近年多発する災害に対し、防災備蓄品等の整備や行政区単位での自主防災組織の結成に向けた啓蒙に取り組みほか、能登半島地震で

の教訓から学ぶ、厳冬期に災害が発生した場合を想定した防災セミナーを開催することとし、引き続き地域防災力の向上に努めてまいります。

○藤沢墓地の整備

人口減少や少子高齢化などを背景に、墓に対する考え方も多様化していることから、廃止いたしました旧沼田火葬場を解体し、跡地に合同墓を整備する所要額を予算計上し、令和7年春の供用開始を計画しております。

○国際交流

本年度は、カナダ・ブリティッシュコロンビア州ポートハーデー地区との姉妹都市提携30周年を迎え、ポートハーデー市長をはじめとする訪問団が訪町することが予定されております。

この受入について沼田ポートハーデー交流協会の協力をいただき実施することとし、これらに掛かる経費について協会への補助金として予算計上いたしております。

○沼田町開拓130年 記念事業

本町は、明治27年に開拓の鋤が下されて130年の記念すべき年を迎えます。

先人の労苦を偲び、伝統と文化、今日まで築かれた礎のもと将来に向かつて更なる飛躍を願い、全町民と喜びを分かちあうことのできる記念事業を実施することとし所要額を予算計上いたしております。なお、記念式典につきましては、10月29日（火）を予定して準備を進めてまいります。

○結びに

少子高齢化により人口減少が急速に進行しているなか、昨年末に厚生労働省が発表した2050年までの全国の地域別将来推計人口の中で、北海道の人口は382万人と2020年の国勢調査と比べて26.9%減となり、全国の人口は東京都を除く全ての府県でも下回り17%減の1億469万人に減少との衝撃的な推計値が発表され、今後は特に地方では今まで増

加傾向にあった65歳以上の人口が多く自治体で減少し、新たな人口減少のステージに入り、更に東京一極集中が加速すると云われております。

人口減少が及ぼす地域社会・地域経済の衰退が懸念される中で、豊富な地域資源を磨き上げ活かすのは「人財」であり、これまで職員と共に培った「知識や経験」を「知恵」に変え、常に地域間の「競争」と「共創」を意識し、開拓130年の節目を「可能性ある大地」から「確かな大地」とするスタートの年と捉え、オールぬまたでスピード感を持ったなかで「共創協働のまちづくり」に挑戦してまいりますので、議員各位並びに町民の皆様のご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。令和6年度の町政執行方針といたします。